

動詞・名詞型複合語の形成に関するフランス語の音韻論的な制約

Contraintes phonologiques dans la formation de mots composés VN du français

多賀 吉隆

TAGA Yoshitaka

1 はじめに

フランス語には、*traîne-pieds* と *traîne-la-patte* “足を引きずる人” のように形も意味も似た複合名詞がある。前者には定冠詞がなく、後者にはある。これが、語形成の仕組みの違いによるとすると、なぜ似ているのだろうか。仕組みの違いによらないとすると、なぜ定冠詞の有無の違いが生じるのだろうか。この研究では、このような複合名詞のうち、他動詞・定冠詞・子音で始まる単数名詞という形の定型表現に由来するものを検討する。¹⁾

2 語形成に統語論は関与するのか

動詞・名詞型 (V-N 型) の複合語は、ロマンス語で盛んに使われ、多くの研究がある。大きな対立点は、形態論のみで語形成がされるか否かである。一方、動詞・定冠詞・名詞型 (V-D-N 型) については、フランス語以外では余りみられず、言及が少ない。²⁾

動詞を第一要素とする複合語は、原則として、男性名詞であり、動作主か道具を意味し、屈折をしないという特徴を共有している。例えば、動詞・副詞の *lève-tôt* “早起き”、動詞・前置詞句の *monte-en-l'air* “押し込み強盗” もそうである。そして、V-N 型以外の語形成には、統語論が関与していると考えざるをえない。

V-N 型の形成にも統語論が関与するという論者には、通時的に句が語になる一語化 (*univerbation*) による Darmsteter (1894) や Nyrop (1936)、共時的に動詞句から作られるとする Sciallo and Williams (1987) や、関係節から作られるとする Coseriu (1978) などが挙げられる。このような立場では、共通性は説明できるが、冠詞の有無を説明するのが難しい。フランス語では名詞に限定詞が義務的につくことが多い。V-N 型の形成の過程で、もともと限定詞がないと考えると、非文法的なものがなぜ作られるかを説明しなけれならぬ。逆に、限定詞が消去されると考えると、それを削除に導く制約が何かを解決しなけれならぬ。

他方、V-N 型の形成に統語論が関与せず、形態論によるとする主な論者には、Fradin (2009)、Villoing (2009) が挙げられる。特定の理論によらない理由は、V-N の繋りが統語論に現れない形になっていること、つまり、限定詞がないことである。この立場では、V-D-N 型は一語化によるとするが、V-N 型と他の型との共通性を別に説明しなけれならぬ。³⁾

3 最適性理論による分析

最適性理論 Optimality Theory (Prince and Smolensky 2004) において、文法の違いは、破ることができる制約の順序で表される。制約は、入力と出力が等しい方が好ましいという忠実性制約、出力形が自然である方が好ましいという有標性制約の 2 つに分けられるが、ある要素が削除された場合は、全ての有標性制約に違反しなくなる。削除の単位は、音とは限らず、単語や形態素であるかもしれない (Rice and Blaho 2009)。

削除の例としては切断 (truncation) が挙げられる (Kager 1999: 257-295)。「めしがうまい」が「めしうま」のように切断される例では、有標性制約である韻律テンプレートが、忠実性制約である削除の禁止より序列が高いため、音が削除される。また、切断は、基底が入力になるのではなく、統語論を経たものが処理をされる出力・出力対応 (output-output correspondence) によっている。

この分析の基本なアイデアは、複合語の語形成が、出力・出力対応によるが、削除の単位が単語になっているというものである。なお、元になるものが何であるかについては、他のタイプの複合語も考慮しなければならないので扱わない。⁴⁾

3.1 データ収集

Google の検索エンジンを、社会的条件や文体の統制がなく、文法タグもないコーパスとして扱った。⁵⁾ 具体的には、<http://www.google.com> に対して、フランス語に限定し、⁶⁾ フレーズ検索を行なった。Google が返すページ数に対して、最初の 20 例の中で、実際に条件があてはまるものを目で判断し、その割合から用例の数を推定した。⁷⁾ なお、アクセント記号は除いて検索をしている。⁸⁾

3.2 同じ動詞で名詞を換える

traîner “引きずる” に定冠詞・単数名詞が続くものを調べてみる。番号は、それぞれを分析するタプローのものである。(1) traîner la teub, (2) traîner la bite, (3) traîner la quéquette, (4) traîner le chibre の 4 つである。名詞はいずれも“陰茎”の意味の俗語であり、特に teub は bite の逆さ言葉である。検索結果は表 1 のようになる。なお、(1), (2) は 2011 年 6 月 3 日のものであり、(3), (4) は 2011 年 9 月 16 日のものである。

実際には、両形があらわれることがあるが、いずれも多数のものが同じ文法を共有していると単純化し、多い方が出力されるとして分析する。⁹⁾

(1) では V-N 型が好まれ、(2) では V-D-N 型が好まれている。(1) では定冠詞の削除が行なわれているので、機能語の削除を禁止する制約の序列は低いと考えられる。¹⁰⁾ この上位に有標性の制約があるはずである。今のところ V-D-N 型では、ほとんどの名詞が 1 音節

表1 名詞による分布の違い

	フレーズ	数	適合	推定数
(1)	trainer la teub	ca.8,630	19/20	ca.8,200
	un traine-la-teub	15	14/15	14
	un traine-teub	ca.208	20/20	ca.208
(2)	trainer la bite	ca.18,600	20/20	ca.18,600
	un traine-la-bite	ca.416	19/20	ca.395
	un traine-bite	ca.205	20/20	ca.205
(3)	trainer la quéquette	5	5/5	5
	un traine-la-quéquette	0		0
	un traine-quéquette	1	1/1	1
(4)	trainer le chibre	7	7/7	7
	un traine-le-chibre	0		0
	un traine-chibre	1	1/1	1

であり、3音節以上のものがみつからないので、これを韻律テンプレートと考える。

(1)	traîne la teub	制約	制約	制約	テンプレ	機能語最大
	traîne-la-teub				*!	
	→ traîne-teub					*

(1) では名詞の最初の子音が、動詞の最後の子音と同じ調音点であるが、(2) では調音点異なる。語末の n が続く子音と同じ調音点になるという有標性の制約があり、タブローの範囲より上に n の忠実性の制約があるとすればよい。¹¹⁾ なお、序列は韻律テンプレートと同じとする。ここで、定冠詞の la はやはり歯音なので、この制約を加えても (1) を変更しなくてもよい。

(2)	traîne la bite	制約	制約	一致 (nC)	テンプレ	機能語最大
	→ traîne-la-bite				*	
	traîne-bite			*		*!

(3) では、名詞が長くなっている。これが定冠詞の削除の原因とすると、上位にも韻律のテンプレートがあると考えなければならない。ここでは、上位のテンプレートを冠詞以降が2拍以下であるという制約とし、下位のテンプレートが音節末子音を拍として数えなければ

ならないという制約であったと考える。

(3)	traîne la qqte	最大 2 拍	制約	一致 (nC)	解析 μ C	機能語最大
	traîne-la-qqte	*!			*	
→	traîne-qqte			*	*	*

名詞の長さが (2) と同じはずの、(4) でも冠詞が削除されている。つまり、語末の n の調音点の同化についての制約より上位に le が違反させている制約があるはずである。これが何かは、次項で考える。

(4)	traîne le chibr	最大 2 拍	制約	一致 (nC)	解析 μ C	機能語最大
	traîne-le-chibr		*!		*	
→	traîne-chibr			*		*

3.3 同じ名詞で動詞を換える

それでは、le を削除させている制約は何なのだろうか。これを考えるために、後半の名詞を sexe にし、前半の動詞として cacher と puer を試してみる。つまり (5) cacher le sexe と (6) puer le sexe である。動詞の部分は、cache が子音で終り、pue が母音で終る。このことにより、le の発音が異なるはずである。つまり、(5) では、子音が連続するので \emptyset があり、(6) では、le が前半の動詞と音節を構成し、 \emptyset が消去される。なお、表 2 の検索結果は、2011 年 6 月 3 日のものである。

表 2 動詞による分布の違い

	フレーズ	数	適合	推定数
(5)	catcher le sexe	ca.17,500	20/20	ca.17,500
	un cache-le-sexe	4	3/4	3
	un cache-sexe	ca.159,000	20/20	ca.159,000
(6)	puer le sexe	ca.547	20/20	ca.547
	un pue-le-sexe	2	1/2	1
	un pue-sexe	0		0

定冠詞 le をもつ V-D-N 型の複合名詞の例は少なく、今のところ採集できている他の例は、pue-le-crottin “(糞の臭いのする) 田舎もの” fend-le-vent “(風を切るよう飛ぶ) 鳥” やのように前半が母音で終るものばかりである。そこで \emptyset を禁止する制約が上位にあり、 \emptyset の忠実性についての制約が下位にあると考える。ただし、この忠実性の制約はタブローで省略する。¹²⁾ これら制約は定冠詞 la をもつ例については影響を与えない。なお、(5) は、(4) と

同様なタプローである。

(5)	cache le sexe	最大 2 拍	*ə	一致 (nC)	解析 μ C	機能語最大
	cache-le-sexe		*!		*	
	→ cache-sexe					*

(6)	pue le sexe	最大 2 拍	*ə	一致 (nC)	解析 μ C	機能語最大
	→ pue-le-sexe					
	pue-sexe					*!

4 結論

この研究では、フランス語の V-N 型の複合語のうち、定冠詞をもつ定型表現に由来するものについては、V-D-N 型の複合語と同様な仕組みで形成されていると考えてよいことを、限られた範囲の語彙についてであるが、最適性理論の枠組みで示した。句から出力・出力対応により韻律テンプレートにそって省略が起こることで複合語が作られ、定冠詞も多くの場合は消去されるが、消去した場合に音韻論的に悪化する場合は定冠詞が維持されると考えられる。今後、おだやかな意味の可能語を考案し、母語話者に調査をするために、複合語の種類を増やし、形式化を進めたい。

註

本稿は、日本ロマンス語学会第 49 回大会 (2011 年 6 月 4・5 日神戸市外国語大学) における口頭発表を一部修正し再構成したものである。

- 1) 語例の大半が俗語であり、差別的な表現や猥雑な表現も多く含まれていることに注意されたい。語義には、原語の文体や使用域を必ずしも反映させていない。
- 2) オック語については、フランス語より稀であるが、V-D-N 型の複合名詞が観察できる。多賀 (2011: 156) を参照されたい。また、口頭発表時、菅田茂昭氏にイタリア語でも名詞が母音始まりのものなら V-D-N 型があることを教えていただいた。
- 3) V-N 型以外でも統語的に作れないものがある。例えば、後半に量子子をもつ *mêle-tout* “何でも口を挟む人” がある。意味的には *se mêler de tout* に由来し、*mêler tout* には由来しない。そのため、V-N 型以外でも単純に統語論によるとすることはできない。
- 4) オランダ語について、Ackema and Neeleman (2004: 154-159) は元になるものを CP と主張している。接尾辞による明示的な動作主化が上手くいかないときに複合名詞になると考えられている。しかし、*chasseur de mouche* が原則としてヒトを、*chasse-mouche* が道具を表すように別語彙になる対があるので同意できない。
- 5) Google では、インターネットをクローラーと呼ばれる自動プログラムが、リンクを辿りながらデータを収集している。なお、コーパスとしてのウェブと検索エンジンの利用については、例えば、荻野・田野村 (2011) を参照されたい。
- 6) Google では、確率を計算して文書に言語タグをつけている。今回の検索では、フランス語として検

- 索したもので、フランス語以外のページは出てこなかった。
- 7) 文法タグがないので、条件にある文字列が句なのか複合語なのか、さらに偶然に並んでいるだけなのかは、目で判断しなければならない。さらにインターネット特有の問題点として、転載などにより同じものが複数回出現する可能性がある。
 - 8) Google では、アクセント記号の有無を書法のゆれとして無視している。また、フランス語圏の掲示板などでは、アクセント記号が省略されていることも多い。
 - 9) 最適性理論の考えでは、同じ言語の話者の中でも、制約の序列に異なりがあり、それにより変異が生じうる。変異の扱いについては、Antilla (2002) を参照されたい。
 - 10) ここで扱う範囲では、機能語まで範囲を広める必要がない。しかし、オック語に *cagabragas* “(ズボンに大便をもらす) 臆病者” という複合名詞があり、前置詞と複数定冠詞 *a las* が削除されていると考えられる。なお、多賀 (2011) では、語彙項目の中で機能語をさらに含むことが望ましくないという制約を考えたが、ここでのように音韻論的な制約と考える方が一般性があるだろう。
 - 11) *traîne-bûche* “いさご虫” など通常の辞書に記載されている項目でも、/nb/ の調音点は同化しない。
 - 12) ここで必要なのは、2つの制約の順序だけである。ə の消去や挿入が起こりやすいので、忠実性の制約の序列はかなり低いはずである。

参考文献

- Ackema, P. and A. Neeleman (2004) *Beyond morphology: interface conditions on word formation*. Oxford studies in theoretical linguistics. Oxford UP.
- Antilla, Arto (2002) “Variation and Phonological Theory.” In J.K. Chambers, Peter Trudgill, and Natalie Schilling-Estes. eds. *The handbook of language variation and change*. Blackwell. pp. 206–243.
- Coseriu, Eugenio (1978) *Gramática, semántica, universales : estudios de lingüística funcional*. Madrid: Editorial Gredos.
- Darmsteter, Arsène (1894) *Traité de la formation des mots composés dans la langue française comparée aux autres langues romanes et au latin*. Paris: Barillon.
- Fradin, B. (2009) “IE, Romance: French.” In R. Lieber and P. Štekauer. eds. *The Oxford handbook of compounding*. Oxford University Press. .
- Kager, R. (1999) *Optimality theory*. Cambridge textbooks in linguistics. Cambridge UP.
- Nyrop, Kristoffer (1936) *Grammaire historique de la langue française*. 2nd edition. Vol. 3. Copenhagen: Gyldendalske Boghandel Nordisk Forlag.
- 荻野綱男・田野村忠温 (編) (2011) 『コーパスとしてのウェブ』。講座 IT と日本語研究、明治書院。
- Prince, A. and P. Smolensky (2004) *Optimality theory: constraint interaction in generative grammar*. Blackwell.
- Rice, C. and S. Blaho. eds. (2009) *Modeling ungrammaticality in optimality theory*. Advances in Optimality Theory. Equinox.
- Sciullo, A.M.D. and E. Williams (1987) *On the definition of word*. Linguistic inquiry monographs. MIT Press.
- 多賀吉隆 (2011) 「オック語における外動的動詞名詞複合語」『津田塾大学紀要』第 43 号、151-165 頁。
- Villoing, F. (2009) “Les mots composés VN.” In B. Fradin, F. Kerleroux, and M. Plénat. eds. *Aperçus de morphologie du français*. Presses Universitaires de Vincennes. .